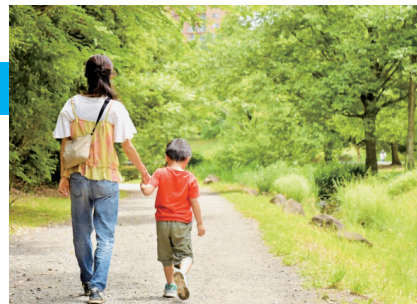


## 8月…東播磨の戦争の記憶

東播磨の戦争遺産としては、加西市の鶉野飛行場跡がよく知られていますが、もう一つ加古川市にも飛行場（加古川飛行場）がありました。昨年の黒田庄地区の人権講演会でその存在を知り、加古川市立尾上公民館を訪ねて、館長の木村浩一さんと「加古川飛行場を記録する会」の上谷明夫さんにお話を伺いました。

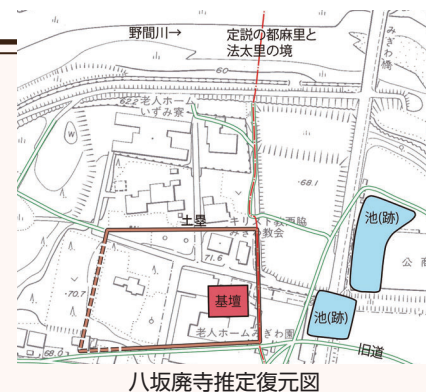
お二人によると、加古川飛行場は、国内の軍事飛行場を結ぶ中継地として建設され、加古川の河口に、三角形に配置された5本の滑走路と通信兵の訓練施設を備えた大規模な飛行場でした。終戦が近づくと、全国から鹿児島県の知覧飛行場へ向かう特攻機の整備や燃料補給を行う中継地となりました。特攻隊員は飛行場近くの「中村屋」に宿泊し、家族と一緒に最期の時間を過ごしました。中村屋には多くの特攻隊員の遺書が残されており、戦後は宿を営むご夫婦が慰霊碑を建て、供養を続けました。



中村屋の閉館後、遺書と慰霊碑は市内の鶴林寺に移され、現在も大切に保管されています。また、尾上公民館では、加古川飛行場に関する資料を展示しており、地域の戦争の歴史を学ぶ場となっています。

この夏で戦後81年を迎えます。私たちが平和に暮らしてこられたのは、戦時を生き抜いた人々の努力があったからです。しかし、近頃のウクライナ情勢やホルムズ海峡を巡る報道に触れると、国際情勢の不安定さが身近に迫っているように感じられます。今こそ、平和の大切さを次の世代へ伝えていく必要があります。

この夏、鶉野飛行場跡や尾上公民館、鶴林寺などを訪れ、地域に残る戦争の歴史を学び、平和について考える時間を持ってみませんか。



八坂廃寺推定復元図



八坂廃寺で採集された古代瓦（市指定文化財）



八坂廃寺は、野間川が加古川に合流する地点から約3・5km上流の右岸にある川の浸食で出来た階段状の地形の上にあった古代寺院です。開発により昭和40年代に未調査のまま消滅しましたが、古代瓦が採集されており、古い記録には建物下の礎石や基壇、周囲の土塁があったと記されています。開発前の航空写真でもその痕跡が確認でき、寺院の規模は南北約76m、北辺の東西約98m、南辺の東西約118mと推定されています。建立時期は今から約1300年前の奈良時代で、近接する野村廃寺（茜が丘）に同じ型枠で作られた瓦があることから、八坂廃寺が移転した可能性があると考えられています。

## 八坂廃寺（八坂町）

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

83

▼問合せ 郷土資料館（☎235992）

## 市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー

151



本宮市のプリンス・ウィリアムズ・パークでの加盟9市町村による記念植樹

### 自治体連携の大切さ

「全国へそのまち協議会」をご存じですか。西脇市も加盟するこの協議会は「へそ」や「中心」「真ん中」など、まちの個性を大切にする自治体が集まり、平成9年に設立されました。総会や観光物産展を通じて互いのまちを知り、魅力や伝え合う交流から始まったつながりです。現在は、北は北海道富良野市から南は沖縄県宜野座村まで、9市町村が加盟しています。協議会の最大の強みは、加盟市町村が全国に広く点在し



西脇市長 片山象三

ている点。災害時に全てのまちが同時に被災する可能性が低く、いざという時に支え合える応援体制が機能します。平成23年には災害時相互応援に関する覚書を締結し、これまでに熊本地震では熊本県山都町へ、令和元年の台風19号では福島県本宮市と栃木県佐野市へ救援物資の搬送や人的支援を行いました。近年、地震や豪雨などが相次ぎ、気候変動による災害の激甚化も懸念されています。こうした中、大規模災害に備える上で、日頃から顔の見える関係を築く自治体同士が遠く離れた場所から支援し合えることは、とても意義があり、心強く感じます。7月、福島県本宮市での総会で首長同士が顔を合わせ、相互支援の大切さを再確認しました。「へそ」の縁から始まった仲間の絆を、いざという時の市民の安心を守る力へ。今後も協議会の連携を大切にしていきたいと思います。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

## いつも笑顔いっぱい、みんなで育む西脇区

～西脇地区コミュニティ活動推進協議会のご紹介～

西脇地区コミュニティ活動推進協議会は、世代を超えた地域のつながりを深めることを目的にさまざまな活動に取り組んでいます。

子どもたちの元気なステージパフォーマンスや、地区内の皆さんの作品展でにぎわう「コミセンまつり」、世代を超えた交流が生まれる「西脇区民大運動会」などを開催し、地域のふれあいを大切にしています。心の通う住みよい地域づくりと、人と人とのつながりを大切にしながら日々活動しています。

8月15日には、午後7時から杉原川でお盆の伝統行事「精霊流し」を行います。手作りの灯籠に火を灯し、川に浮かべて流しながら故人をしのびます。お盆ならではの幻想的な風習として、地区の皆さんとともに大切に受け継いでいます。



西脇の自然 629

## ミソハギ

ミソハギ科



市内では池の堤などでよく見られます。茎のまわりに濃いピンク色の小さな花が並び、下の方から順に咲いて、穂のようなふんわりとした姿になります。

ミソハギの名は、みそぎに使うハギの花に似ていることから「禊祓」や、水辺に生えることから「溝萩」が転じたとも言われています。また、お盆に供えられることから、盆花や精霊花とも呼ばれます。

地下茎を伸ばし、生育に適した場所では一面を覆うほどに広がります。夏の水辺に溶け込む素朴で落ち着いた花で、茶花としても親しまれています。古くから日本の風土や暮らしに寄り添ってきました。

暑さを避けて早朝や夕暮れ時に、ミソハギを探しに出かけてみませんか。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】